

大塚楠緒子 おほつかのぶ 小説家、歌人。明治八年八月九日東京生れ、四十

二年十一月九日歿（六五―一九〇）。本名久壽雄。筆名くすお、くすき

生、ゆき子、久壽雄子、大塚南緒子、大塚楠男、大塚楠緒女、楠男生、

楠緒子等。東京女子高等師範學校附屬女學校卒。少時より竹柏會に入

り歌作。明治二十八年美學者大塚保治（舊姓小屋）と婚養子に迎へ、

雑誌『文藝俱樂部』に擬古文體の小説「くれゆく秋」等々發表、樋口

一葉と繼ぐと評せられた。他に厭戰詩「お百度詣」が有名。

著書『青葉集』（合著・石橋哲次郎編、明治二十年十一月）、『二十文

盛堂』、『竹柏園集・第一編』（合著・佐々木信綱編、明治二十四年

二月十日博文館）、『くさくさ』（内題「葦笛」合著・紫苑會編、明

治二十四年九月）、二十八年大倉分店）、村雨日記『服部蕭香女史合

著、明治二十五年九月）、二十五年金港堂書籍株式會社「金港堂小説叢

書』、『晴小袖』（明治二十九年一月一日隆文館）、歌集『あけぼ

の』（合著・佐々木信綱選、明治二十九年八月）、二十八年修文館）、同

『玉琴』（合著・同、明治四十一年四月十五日春陽堂）、『曉露集』

（合著・東亞協會文藝部編、明治四十一年十一月）、二十五年弘道館）等。